ちょっと変わった本屋

本と珈琲の店Punto（千葉市）

京成「みどり台駅」から徒歩3分、スペイン語通訳者の上野洋子さんと夫でグラフィックデザイナーの太一さんが昨年4月7日に始めた新刊書店Puntoを訪れた。

店名の由来と書店を始めるきっかけをたずねた。「Puntoとはスペイン語で点や地点、論点といった意味。出発点や集合地点、転換点など様々な使われ方をする言葉。短くて響きもよいので決めました。コロナ禍で通訳の仕事がゼロになったことが書店を始める動機。書店という空間はいろいろなテーマとリンクする。スペイン語とデザインも繋げられる」と、洋子さん。

心地いい店内には表紙を見せる平置き方法で美しい本が並ぶ。ベストセラーのような売れ筋の本は取り扱わない。スペイン語関係、デザイン、自然、環境、言葉や詩、食、旅、建築、音楽、映画が主なジャンル。

この場所を選んだのは「閑静な住宅地で大学もあり、コーヒー豆店やパン屋など個人商店が点在している。みどり台駅周辺で使われている地域通貨が使えるのも面白い」と太一さん。店内の日当たりのよい窓際にはカフェスペースもある。床、本棚、カウンターは夫妻の手作り。

本に対してのこだわりは「デザインの視点から楽しめる本、装丁に興味があり、美しい本が好き」と口をそろえる。装丁の面白さに魅かれて本の世界に入ってみるのも良いのでは。店の奥の広いスペースでは、今後シェア型の本棚を始める。棚はすでに完成して、入居本を待っている。

「プントっていう、ちょっと風変わりな本屋があってもよい」と笑顔の洋子さん。お二人とも書店勤務の経験はないが、「だからこそ枠にはまらない面白さを出したい」と太一さん。

▼千葉市稲毛区黒砂1の5の14。The 30th ビル201。12時～18時。（不定休あり）。http://punto.jp

国史跡　本佐倉城跡（ほんさくらじょうあと）

歴史探訪「酒々井ふるさとガイドの会」

会長・山本孝一さん

「まずは案内所にどうぞ」と山本会長

（酒々井町）

1998年に国史跡に指定された「本佐倉城跡」。今から約500年前、千葉輔胤（すけたね）が築城し、豊臣秀吉に滅ぼされるまでの約100年間栄えた。自然を利用した約35万平方メートルの巨大な土の城郭を今に伝えている。

先ずは、見学者の導入施設「本佐倉城跡案内所」で、本佐倉城跡と千葉氏の歴史を展示パネルや出土遺物、ビデオなどでその成り立ちを理解する。さらに「酒々井ふるさとガイドの会」による無料ガイドの案内で城跡を散策することもおすすめだ。同会は2008年から活動していて、現在ボランティアガイド16名が登録している。

「戦国時代末期の遺構がこのように残っていることは大変珍しい。素晴らしい歴史遺産をたくさんの人に知ってもらいたい。天気が良い日は遠くに筑波山も見える。来城者とのふれあいも楽しみです」と同会会長の山本孝一さん（81）。

平日は約30名、日曜祝祭日は約100名が来城するそう。ガイドが必要な場合は事前の申し込みが確実だが、当日でもガイドが在中していればOK。また毎月第四土曜には申し込み不要の見学会がある。次回は今月22日。（雨天中止）。

これからの季節は山野草なども楽しめるとのこと。ガイド所要時間は約1時間。自然の風に吹かれて、ガイドの案内でいにしえに心を馳せてみるのもよいのでは。

▽「本佐倉城跡案内所」開館時間9時～16時30分。印旛郡酒々井町本佐倉825。▽休館日：月曜（月曜が祝祭日の場合はその翌日）、祝祭日の翌日。無料駐車場有。▽問☎043・496・5334（酒々井町教育委員会・生涯学習課）。

フリースクール主宰「古山教育研究所」代表　古山明男さん（千葉市）

「14・5歳までは十分遊びこむことが大事」と古山さん

不登校の子供たちとその家族を支える活動を30年以上続け、日本の学校システムへの問題を提起した著書の執筆や、経済の研究者としても活躍する古山教育研究所代表の古山明男さん（73）を訪ねた。

古山さんは大学卒業後、6年間出版社に勤務。「同じ人間同士なのに身分制度のように上下関係があることに反発を感じて全く敬語を使わないでいたら、総スカンをくらった。そのときは自分の周りに氷の壁があるようでした」と、笑いながら会社を辞めたいきさつを語る。

しかし、その経験が不登校の子どもと接するときに活きた。「不登校の子どもにボランティアで教える機会があり、自分が会社勤めの時にされて嫌だったアドバイスや励ましといった行為は絶対にするまいと決めた」。

同じ目線に立って接することで、子供たちが心を開いてくれた。「この子たちには、言葉で答えを引き出そうとせず、自然に言葉が出てくる場が必要」と考え、遊び場の提供のため、自宅でフリースクールを始めたのが1990年。

現在は千葉市にある「おゆみ野の森」で毎週木曜、野外でのフリースクールを主催する。他のフリースクールの相談役兼助っ人として、また、千葉市のフリースクールや夜間中学、日本語学校、不登校親の会が連携して作る「千葉市教育機会確保の会」の代表も務める。

更には、オルタナティブ教育、ホームスクールなどの「多様な教育を推進するためのネットワーク（通称おるたネット）」の代表を務めながら、学校に通っていない子供たちへの理解を深め、その環境改善と保護者の負担軽減のために精力的に活動を続けている。

「後に大検や通信制高校を経て大学に進学し、大学の勉強が楽しいと語る子が多い。子どもが誰に言われるわけでもないのにやりたがることの中に、その子の天職につながるものが含まれている」と、古山さんは話してくれた。

▽「千葉市教育機会確保の会」ホームページ https://chiba-city-kakuho.com

佐倉公募写真展 2023

（佐倉写真連盟写真展同時開催）

2023年4月19日（水）～4月23日（日）

10時00分～17時30分　最終日は16時まで

佐倉市立美術館　3F市民ギャラリー

佐倉市新町210 京成佐倉駅 徒歩8分 ☎043-485-7851 入場無料

主催　佐倉公募写真展2023実行委員会　佐倉写真連盟

後援　佐倉市教育委員会

問い合せ　実行委員長　蔵森進一郎　Tel 090-7900-3165

第35回佐倉楽友協会定期演奏会

SPRING CONCERT～ふたたび

4月23日（日）14時開演（開場13時30分）

佐倉市民音楽ホール（京成日井駅徒歩5分）

全席自由　1000円

安斎孝子（ソプラノ）　石渡美香（トランペット）　樋口めぐみ（ピアノ）
ヘンデル　オラトリオ「サムソン」より「輝くセラフィムよ、炎の列となり」　他

岩崎紀子（ソプラノ）　大熊カオル（ピアノ）
ヘンデル　オラトリオ「メサイヤ」より「シオンの娘、喜べ、叫べ」　他

坂井裕子（ピアノ）
リスト＝ワーグナー　「イゾルデの愛の死」

岩崎紀子（ソプラノ）　高原剛（バリトン）
モーツァルト　歌劇「フィガロの結婚」より「ひどいぞ！なぜこれまで」　他

吉澤実佑（パーカッション）
安倍圭子　山を渡る風の詩（マリンバ）　他

門野剛士（フルート）　高尾愛子（ピアノ）
ビュッセル　プレリュードとスケルツォ

佐々木智幸（ヴァイオリン）　杉原佐知子（ヴィオラ）　上田哲也（チェロ）
浅野ありりさ（コントラバス）　大熊カオル（ピアノ）
シューベルト　ピアノ五重奏曲「鱒」より　第4・5楽章

＊駐車場　今日も駐車曲日。演奏者に変更があることがあります。予めご了承ください。

主催　佐倉楽友協会
後援　佐倉市教育委員会
協力　パール楽器製造株式会社
チケット予約　佐倉楽友協会HP　043-462-2923（大熊）
チケット販売　佐倉市民音楽ホール　043-461-6221

おわび

3月1日号、西船の「茂春山宝成寺襖絵公開」の記事で、正しくは「宝成寺」と記するところを、誤って「法寺」と記載してしまいました。お寺様はじめ、読者及び関係者の皆様には多大なご迷惑をお掛け致しました。お詫びして訂正致します。

「茂春山宝成寺の襖絵」住職の赤星隆誠さんと、襖絵を描いた抽象水墨画家の荒井恵子さん（写真左側）

矢路川結子の　おうちでごはん

ココカラエガオ食堂

「ココロ」と「カラダ」が笑顔になる

ココカラエガオ研究所

Yajikko KITCHEN

春のおもてなしサラダ

気持ちのよい季節になりました。
これからはお友だちや家族とホームパーティを行う機会も増えそうです。
簡単に作れておもてなしにぴったりな前菜サラダでホームパーティに彩を添えてください。

材料

大根……1/3本
生ハム……適量
キウイ……1個
醤油糀（醤油でもok）…小さじ1
レモン汁……大さじ1
オリーブオイル…大さじ3
塩……適量
コショウ……適量

作り方

1. 大根をスライサーで薄くスライスする。生ハム・キウイを食べやすい大きさにカット。
2. お皿に大根・生ハム・キウイの順番で敷いていく。
3. ○のドレッシングになる材料を混ぜ合わせ、2の全体にかけ完成。

日帰り

ゴールデンウイークに都心を水上散歩!!

まいたび貸切船で東京下町運河探検 日本橋川と神田川クルーズ！

神田川・聖橋付近（イメージ）

東京再発見！
普段は見られない川面からの都心の景観。低い橋や狭い川、小型船（貸切）のみ進入できるルートを行きます。

出発日（日帰り）　旅行代金（おひとり・税込）
5月3日㈬㈷　5,980円　旅行番号 C0102-53

◆コース／日本橋10時発〈貸切船〉（約90分のクルーズ⇒日本橋川～神田橋～神田川～水道橋～お茶の水橋～聖橋～万世橋～浅草橋～隅田川～浅草）11時30分頃着（着後解散）　※乳幼児はご参加いただけません。　◆食事：食事は付きません。　◆最少催行人員：20名　◆添乗員は同行しません

☎03-6265-6966　◆申し込み／毎日新聞旅行〈ふれあい〉係（10時～16時、土日祝休み）後援・東葛毎日新聞社